

CCBA 合格体験記

株式会社アドヴァンスト・ソフト・エンジニアリング
大土井 竜也

1. はじめに

私が初めて CCBA を知ったのは 2013 年ごろだったと思います。PMP 取得後に PMI からのメールマガジンで BABOK の記事を目にして CCBA という資格があることを知りました。

最初の印象は、PMP 取得時と同じ学習方法でイケそうだな、というものでした。

実際、同じ学習方法で一発合格できたので、合格体験記として皆さんのお役にたてることができたらいいなと思います。

2. 受験準備

まずは、IIBA 日本支部のホームページから「CCBA®ハンドブック」と「CCBA®出願画面ガイド」を入手します。

IIBA 日本支部のホームページにて「資格認定」>「受験情報」とたどればリンクがあります。(執筆当時の情報です)

ここではオンライン申請でのポイントなどを記載します。

(1) プロジェクトの入力

まずは、業務要件を入力する際のプロジェクトの名称や目的などを英語で入力するというもので、これが最初のめんどくさポイントです。

また、現在の会社に転職する前の会社での業務経験を入力するに当たり、当時の上司の連絡先メールアドレスなども必要だったので、久々に当時の上司に連絡をして許可を頂きメールアドレスを書かせていただきました。

(2) 業務経験の入力

業務要件の入力に当たっては、以下のような Excel を用意して必要な時間をクリアしていることを確認してからオンライン画面に転記することにしました。

知識エリア	対象となるタスク	27か月	28か月	29か月	30か月	31か月	合計
知識エリア	対象となるタスク	4500	4320	2600	2560		14000
知識エリア	対象となるタスク	800	311				1111
知識エリア	対象となるタスク	1000	1000				2000
知識エリア	対象となるタスク	375	375				750
知識エリア	対象となるタスク	1995					1995

これを1つのプロジェクトについて知識エリアごとに行い、さらに複数のプロジェクトについて行い、最終的な合計値を右端に算出して申請に必要な条件をクリアしていることを確認しました。

- ① 総合計が 3750 時間以上
- ② 2つの知識エリアで 900 時間以上、または、4つの知識エリアで 500 時間以上
上記①②を両方満たす必要があります。

(3) 推薦状

オンライン申請画面で Add ボタンを押し、1 人目は私が所属する会社の社長、2 人目は部長の連絡先を入力しました。

予め社長と部長には IIBA からメールが届くことは伝えていたのですが、案の定、迷惑メールとして自動振り分けされていました。

確か 2、3 日でメールが届いていたと思います。

入力して頂いた翌日くらいにオンライン画面に反映されていました。

(4) 申請料や受験料の支払い

オンライン申請が終わると、当日か翌日には申請承認のメールが IIBA から届きます。(もちろん英語です)

その後、PayPal で支払処理を行うと、受験料を受け取った旨のメールが届きます。

(5) 日本語で受験したい旨のメール送信

日本語で受験したい場合は IIBA に連絡をする必要があるとハンドブックに書いてあったので、とりあえず以下のようなメールを IIBA に送りました。

宛先：certification@iiba.org

件名：CCBA exam in Japanese Language

本文：

Dear IIBA

I'm Tatsuya Odoi, a member of IIBA (ID: x x x x x).

My online application to sit for the Certification of Competency in Business Analysis exam has been approved, And I paid for the exam fee just now.

CCBA Handbook (Japanese version) says that, if I'd like to take exam in Japanese Language, I must notice to IIBA by e-mail before registering exam date.

That's why I send this e-mail.

I appreciate if IIBA give me an e-mail that says my exam in Japanese Language is approved.

After getting the e-mail, I register exam date with Prometric.

Regards, Tatsuya.

日本語版のハンドブックに「日本語で受験したかったら連絡しろ」と書いてあるから連絡しましたよ、という意味（のつもりで書いた）英文です。文法などは大して気にしません。「この人、日本語で受験したいんだな。」と分かってもらえればそれで良いかと思って。

すると、翌日に以下のメールが返ってきました。

Thank you Tatsuya-san

We will set your exam for Japanese. I will send you a confirmation notice once this action is complete.

x x x x (←担当者らしき人の名前)

x x x x x x x x (←担当者らしき人のフルネーム)

Certification

International Institute of Business Analysis (IIBA)

どうやら私の英語でも通じたようでした。

3. 学習

(1) 使用したテキスト

BABOK®ガイド完全準拠 CBAP®/CCBA™ビジネスアナリシス認定スタディガイド 上巻
BABOK®ガイド完全準拠 CBAP®/CCBA™ビジネスアナリシス認定スタディガイド 下巻
Business Analysis 教科書 BABOK CCBA
ビジネスアナリシス知識体系ガイド (BABOK ガイド)

(2) 学習方法

最初に認定スタディガイドを読んで全体を何となく把握し、教科書はおさらいとして活用。
BOBOK ガイドを購入したのは最後でした。

教科書の知識エリアごとの演習問題を紙に印刷して、通勤電車の中で繰り返し解きました。

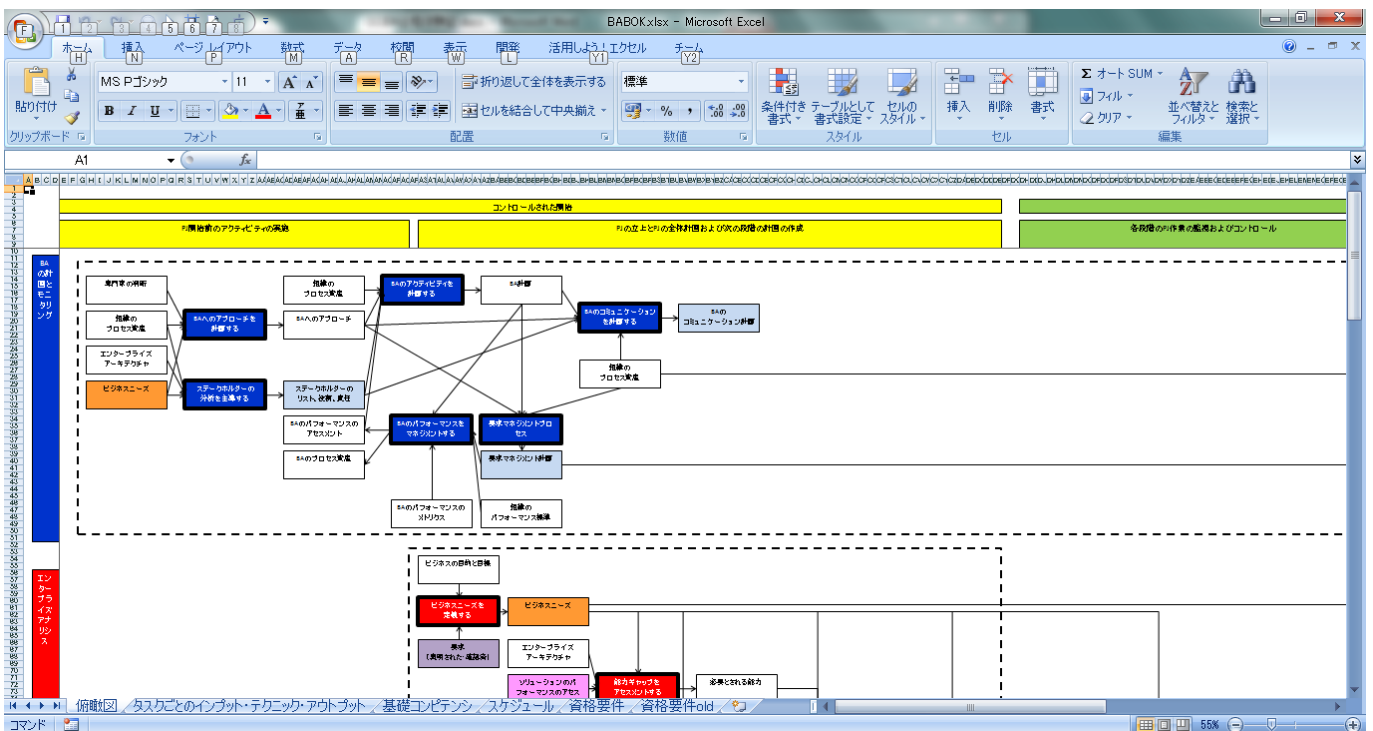
解説にはBABOK ガイドの章・節の番号が書いてあるので、正解できた場合でも、残りの3つの誤り選択肢についてどこが誤った記述なのかを確認するところまで行いました。

★ご注意★

教科書の演習問題には、解答が間違っている部分がある何か所があります。「おかしいな」と思ってBABOK ガイドを確認したら、教科書の方が間違っていたというのがわかり、危うく間違ってしまうところがありました。

あと、私は自分で書いて覚える派（と言っても手で書くわけではなく Excel など自分流に整理するだけ）なので、PMP の時と同じようにタスクの関連図やインプット・アウトプットを自分で書いてスマホに置いてこちらも通勤電車で時々眺めていました。

その際、知識エリアごとに色を付けておいたので問題を解く際でも「あー青色の右端にあったあれだな」という感じで視覚的に覚えていたように思います。



知識エリア	タスクと目的	インプット	要素	テクニク	テクニクの概要(下巻の付録Dと下巻の記述内容が)	アウトプット	試験攻略のポイント
BAの計画とモニタリング	BAへのアプローチを計画する BAを遂行するためのアプローチをどのように選択するか、またステークホルダーの誰がその選択に関与する必要があるのか、そのアプローチについて誰に意見を求め、誰に報告するのか、そのアプローチを採用するための理路的根拠がなんでいるかについて記述する	・専門家の判断を仰ぎながら ・組織のプロセス資産にある過去のアプローチや企業標準、テンプレートを使って ・ビジネスケースを満たすためのBAへのアプローチを計画する	方法論 ・計画駆動アプローチ ソリューション/実装の開始前に完璧に定義する。PJM当初の不確実性(リスク)を最小化しBAのアクティビティに対するコントロールを最大化すること。 ・変化駆動アプローチ 最終結果に到達するまで小さいイテレーションを定義し何回も繰り返す。 ビジネスレビューを迅速に提供するため、ソリューションので提供全種にかかるより大きな不確実性(リスク)を受け入れる。柔軟性を利用してPJMをコントロール。	決定分析	期待値×発生確率で、どのアプローチを採用するか決定する。	BAへのアプローチ	
			・ビジネスアナリシスの作業のタイミング 実行するタスクの識別と、実行するリソースの識別が必要。 ・ビジネスアナリシスの成果物の公式度と詳細度のレベル 計画駆動アプローチでは公式度が高く成果物も詳細で公式な承認が必要。 変化駆動アプローチでは公式度は低く成果物は最低限の文書にとどめ非公式に承認されることもある。 PJMの複雑性 PJMが増強になると... 公式の成果物の数が増える レビュー回数が増える リスクが高くなる モデリングと計画の作業を先に実施すべき	プロセスモデリング	FCMのようなもの。		複雑性を増大 ・ステークホルダーの影響を受け ・リスクの経緯 ・要求の特異性 ・必要とされる

★ワンポイント★

タスク固有のテクニクについては全部言えるようになっておく和良好的。

4. 受験当日 (2015/1/25)

(1) 検査

入り口で、金属探知機による検査を受けスマホなどの持ち込み不正がないかを調べられます。また、両腕と両足は袖口をまくって手書きカンニングがないかも調べられます。トイレ休憩はいつでも何回でも自由に行けますが、席に戻るたびにこのチェックがあり、当然チェック待ちの間も試験時間(3時間半)は進み続けています。

(2) 問題を解く

3時間半で150問ですが、悩んだ問題だけマークをつけながらとりあえず最後まで一通り解いてみて2時間くらいでした。(途中にトイレ休憩を1回)

2015年1月の受験でしたが、日本語の翻訳については全然問題ないレベルで普通に読み進められました。次に悩んでマークを付けた問題(たしか30問くらいあったはず)だけを見直して、2回目のトイレ休憩をはさみ、最後に全問を読み返してこれ以上見直しても変わらないと思ったところで試験終了しました。ちょうど3時間経過し残り30分ありましたが早目に切り上げました。

採点ボタンか何かをクリックすると数秒たってCongratulationsと画面に表示された記憶があります。

5. 受験後

(1) 合格キット

1月下旬の受験で、2月20日くらいに合格証書とバッジ、プラスチックの名刺のようなものが届きました。

(2) 会社の名刺にロゴを入れる

会社の名刺にCCBAロゴを入れようと思ったのですが、PMPはPMIのサイトからロゴの画像ファイルがダウンロードできるのに対し、CCBAのロゴはどうやって入手すればよいのかわからず、またまたIIBAにメールで問い合わせをしました。

そうすると返信があり、スタンダードマニュアルからコピー&ペーストできるという内容と、親切にもロゴのPDFファイルを添付して送ってくれました。おかげで無事に名刺にロゴを入れることができました。

6. さいごに

CCBAを取得するというのを一つのプロジェクトとして捉え、WBSを作成すると良いです。

学習系タスクと申請などの手続き系タスクに分けてタスクを細分化し、各タスクにスケジュールを設定すれば、自分にとって無理のないスケジュールが立てられると思います。

以上